

運動会も無事に終わり、ぞうぐみさんの子供たちは、心身ともに充実した毎日を送っています。その気持ちが10月23日のお茶のおけいこにも現れていて、一つ一つの動作にも落ち着きがあり、「今日のおけいこはみんな100点満点よ」と思わずほめ言葉も飛び出しました。「又、楽しいお稽古してね」と、次への意欲も伝わってきました。担任や、指導者の心も豊かになったひと時でした。

この次は、お茶筥を使ってお茶を点てる練習をしようと約束をしました。お家でもお客様にお茶を差し上げたいと張り切っていますので、ぜひ機会を与えて上げて下さいね。

* 10 月のお干菓子



こぎく、菊の葉

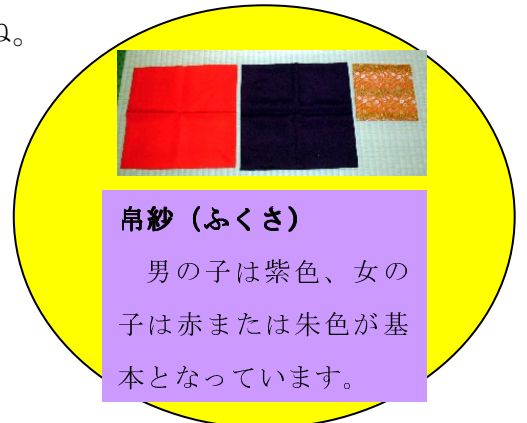
* 10 月のお花



よぎくら
* 夜桜

ほととぎす
* 不如帰

* コスモス



帛紗 (ふくさ)

男の子は紫色、女の子は赤または朱色が基本となっています。

※ 今月は、今までの復習と、**新しく帛紗を腰につけること**を練習しました。(お茶を運ぶためには、帛紗をつけてお席(お茶室)に入ります。そのお稽古です。



① 大きく広げて三角に折って!



② 三角の端と端を持って!



③ 左手で持ってお腰につけましょう!



④ ふくさを付けてのお運びです

* 豆知識 — お茶の歴史 (1) 「お茶のもと中国」

お茶を飲む風習がはじめて伝えられたのは、奈良時代といわれています。そのころは団茶というお茶の葉をつき固めた“だんご”のようなものでした。

平安時代の終わりごろ中国の宋に渡った栄西という僧侶がお茶の実を持ち帰り、日本に広まっていったそうです。

栄西はお茶は飲んで楽しむだけでなく、病気に効く薬だと時の将軍源実朝に献上し、武家の間には広まり始めました。又、商人の間にも広まっていったようですが、当時ではぜいたくな遊びと考えられ、お茶の産地や茶名を当てたりして楽しまれていたようです。来月は茶道の始まりへと続きます。